

第30回東京国際映画祭 実施報告

2017年12月21日(木)

公益財団法人ユニジャパン

「第30回東京国際映画祭」概要

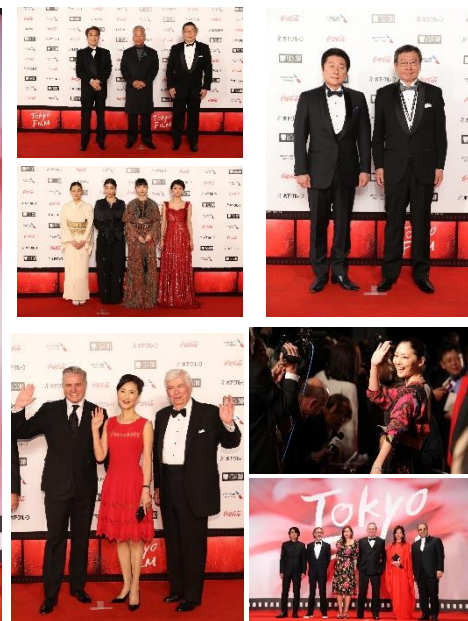
会期：2017年10月25日（水）～11月3日（金・祝）

会場：六本木ヒルズ、EXシアター六本木

主催：公益財団法人ユニジャパン

会期中の主なイベント

【10月25日（水）】 15：00～18：00 レッドカーペット



【10月25日（水）】 18：00～19：00 オープニングセレモニー



【10月26日（木）】 17：30～ 歌舞伎座スペシャルナイト



【11月3日（金）】 14：00～16：00 クロージングセレモニー



第30回東京国際映画祭 実績

動員数： 201,790名（第29回：181,031名／第28回：238,185名）

作品数： 233本（第29回：274本／第28回：231本）

【受賞者一覧】※（ ）内の国名は作品の製作国

コンペティション部門

東京グランプリ：『グレイン』（セミフ・カプランオール監督／トルコ、ドイツ、フランス、スウェーデン、カール）

審査員特別賞：『ナポリ、輝きの陰で』（シルビア・ルーツィ監督、ルカ・ベッリーノ監督／イタリア）

最優秀監督賞：エドモンド・ヨウ監督（『アケラットーロヒンギヤの祈り』／マレーシア）

最優秀女優賞：アデリーヌ・デルミ（『マリリンヌ』／フランス）

最優秀男優賞：ドアン・イーホン（『迫り来る嵐』／中国）

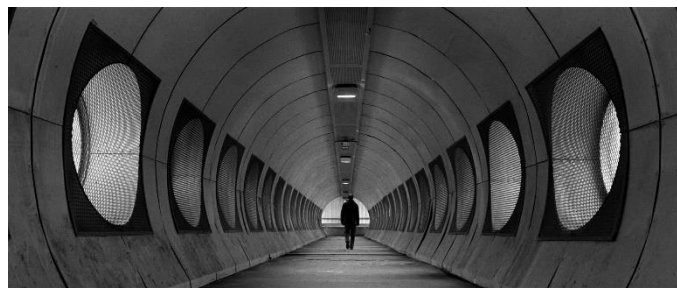
最優秀芸術貢献賞：『迫り来る嵐』（ドン・ユエ監督／中国）

最優秀脚本賞：『ペット安楽死請負人』（テム・ニッキ監督／フィンランド）

観客賞：『勝手にふるえてろ』（大九明子監督／日本）



東京グランプリ
『グレイン』
(左) 受賞の様
(右) 作品画像



日本映画スプラッシュ部門

作品賞：『Of Love & Law』（戸田ひかる監督／日本）



作品賞
『Of Love & Law』
(左) 受賞の様
(右) 作品画像



アジアの未来部門

作品賞：『僕の帰る場所』（藤元明緒監督／日本、ミャンマー）

国際交流基金アジアセンター特別賞：『僕の帰る場所』（藤元明緒監督／日本、ミャンマー）

スペシャル・メンション：『老いた野獣』（チョウ・ズーヤン監督／中国）



作品賞
『僕の帰る場所』
(左) 受賞の様
(右) 作品画像



東京ジェムストーン賞

石橋静河（『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』）、松岡茉優（『勝手にふるえてろ』）
アデリーヌ・デルミ（『マリリンヌ』）、ダフネ・ロー（『アケラットーロヒンギヤの祈り』）

中国に関する東京国際映画祭の取り組み

上映作品 合計9本 ※第29回(2016年)は6本

オープニングスペシャル『空海-KU-KAI-』（中国=日本=香港）チェン・カイコー監督
コンペティション『迫り来る嵐』（中国）ドン・ユエ監督
アジアの未来『老いた野獣』（中国）チョウ・ズーヤン監督
アジアの未来『ソウル・イン』（中国）チョン・イー監督
ワールドフォーカス『Have a Nice Day』（中国）リウ・ジエン監督
ワールドフォーカス『石頭』（中国）チャオ・シアン監督
ワールドフォーカス『こんなはずじゃなかった!』（香港=中国）デレク・ホイ監督
Cinema Arena 30『グリーン・デスティニー』（アメリカ=中国）アン・リー監督
Cinema Arena 30『初恋のきた道』（中国）チャン・イーモウ監督

来日ゲスト：45名 ※第29回(2016年)は68名/第28回(2015年)は57名

中国マスコミ：105名(全海外マスコミの約2割) ※第29回(2016年)96名/第28回(2015年)73名

中華系媒体露出数：約3,600記事 ※第30回(2016年)は約3,500記事

10月25日(水)

【レッドカーペット】15:00~18:00 六本木ヒルズ アリーナ

オープニングスペシャル『空海-KU-KAI-』、コンペティション『迫り来る嵐』などのゲストが参加。



『空海-KU-KAI-』ホアン・シュアン(左から2人目)



『迫り来る嵐』ドン・ユエ監督(左から2人目)



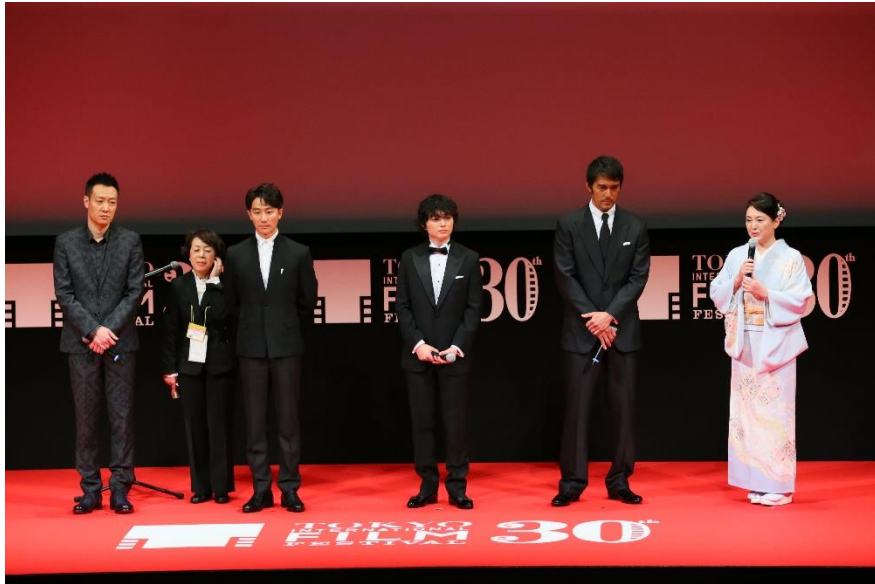
『老いた野獣』チョウ・ズーヤン監督(左から3人目)



『ソウル・イン』チョン・イー監督(右から3人目)

10月25日(水)

【オープニングスペシャル『空海-KU-KAI-』】 EXシアター ※オープニングセレモニー内で上映



染谷将太



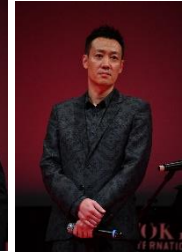
阿部寛



松坂慶子



ホアン・シュアン



シン・バイチン

10月26日(木)

【記者会見「日中映画交流の新たな展開」開催】 10:00開演 六本木アカデミーヒルズ49 タワーホール

両国が進めている日中合作協定についての進捗報告、日本と中国のスタッフ・キャストが揃い製作された映画『空海-KU-KAI-』の製作報告、そしてユニジャパン（東京国際映画祭）が国際交流基金、上海国際影視節（上海国際映画祭）と協力して、中国で「日本映画上映会」（2017年12月）、日本にて「中国映画上映会」（2018年3月）を開催することになり、それぞれの上映会の概要が発表された。

- 登壇者： 西村康稔（内閣官房副長官）
 薛劍（中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官）
 萩生田光一（衆議院議員）
 角川歴彦（株式会社KADOKAWA 取締役会長）
 夢枕獯（『空海-KU-KAI-』原作者）
 松坂慶子（『空海-KU-KAI-』出演女優）
 安藤裕康（独立行政法人国際交流基金 理事長）
 於侃（上海国際影視節有限公司 映画部ジェネラルマネージャーアシスタント）



安藤裕康、於侃、萩生田光一、松坂慶子、西村康稔、薛劍、夢枕獯、角川歴彦

10月27日(金)

【アジアの未来『ソウル・イン』上映】 21:20開映 TOHOシネマス 六本木ヒルズSC9

本編上映終了後、チョン・イー監督らによるQ&Aを実施。



10月28日(土)

【アジアの未来『老いた野獣』上映】 12:00開映 TOHOシネマス 六本木ヒルズSC9

本編上映終了後、チョウ・ズーヤン監督らによるQ&Aを実施。



10月29日(日)

【コンペティション『迫り来る嵐』ワールド・プレミア上映】 20:15開映 EXシアター

本編上映終了後、ドン・ユエ監督、主演俳優ドアン・イーホン等によるQ&Aを実施。



11月3日(金)

【クロージングセレモニー】14:00開演 EXシアター

コンペティション部門にて『迫り来る嵐』が最優秀芸術貢献賞と主演男優賞（ドアン・イーホン）を受賞。



中国媒体露出関連

本年は中国から105名のマスコミが東京国際映画祭に参加し、約3,600もの媒体露出が行われた。中国マスコミはインターネットが中心で、レッドカーペットや『空海-KU-KAI-』『迫り来る嵐』の最優秀芸術貢献賞・最優秀主演男優賞受賞などが報道された。

【CCTV6】



【インターネット媒体での記事】



「iQiyi」東京国際映画祭特集ページ



『空海-KU-KAI-』記事



『迫り来る嵐』受賞記事



『老いた野獣』関連記事



「日中映画交流の新たな展開」会見連記事

「JAPAN CONTENT SHOWCASE 2017」 実施報告

JAPAN CONTENT SHOWCASE 2017



音楽、映画、TV、アニメの各ジャンルが一堂に会する国際的にもユニークなコンテンツ見本市として年々その価値を高めている。6年目となる2017年は、10月23日～26日に渋谷と池袋の2拠点で開催。



東京国際ミュージックマーケット

日本音楽の海外展開を目的として商談会やセミナー開催によるビジネスマッチングの機会を提供する場（2004年～）。

渋谷



TIMMは2016年より音楽と親和性の高い渋谷で開催。



東京国際映画祭併設映像コンテンツマーケット

東京国際映画祭に併設した国内外の映画、TV番組等の映像コンテンツを中心とした見本市（2004年～）。

池袋



2017年、会場から池袋に移転。池袋は、豊島区が掲げる国際アートカルチャー都市構想のもと、2020年に向け大きく変貌を遂げようとしている。豊島区の応援を得て、その池袋のインフラを活用していくことで、JCSも価値向上を目指していく。



東京国際アニメ祭

日本のアニメ産業の活性化を目的に、ビジネスマッチングの場を設け、国内外のアニメビジネス情報を発信する（2010年～）。



JAPAN CONTENT SHOWCASE2017 延べ総来場者数

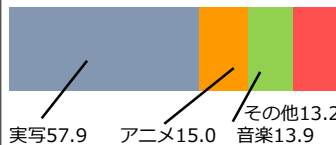
総計	19,549人	前年対比	106.7%
渋谷会場（10/23～25渋谷エクセルホテル東急他）	3,163人		108.7%
池袋会場（10/24～26池袋サンシャインシティ他）	16,386人		106.3%

● 出展団体数の変化

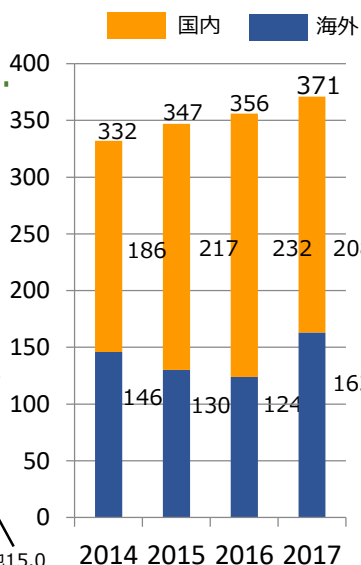
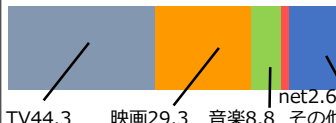
出展団体数は依然上昇傾向が続く。2017年は、海外の出展団体数が伸長。国内もブース面積では対前年117%に。

2017年は27の国と地域より出展。日本以外ではアジア128、ヨーロッパ13、北米12、南米6、中近東4と、圧倒的にアジアが多い（特に多いのは韓国48、台湾24、カンボジア14、中国13）。

2017 出展者の取り扱いカテゴリー



2017 出展者の取り扱いコンテンツ



● バイヤー登録数の変化

海外バイヤー参加者が年々拡大。2017年は、前年対比110%。4年前からは1.77倍の伸長。

2017年は48の国と地域のバイヤーが登録。アジア760人、ヨーロッパ131人、北米95人、南米23人、中近東8人、オセアニア5人。

2017年に前年より大きく人数を伸ばしたのは、①韓国 +24人（186人）②フランス +17人（42人）③ロシア +13人（16人）

2017 海外で登録が多かった国と地域

1	韓国	186
2	中国	143
3	香港	106
4	台湾	105
5	アメリカ	90

